



〈鶴ヶ島市立藤中学校だより 第12号〉

学校教育目標

ともに学び、未来を拓くたくましい生徒の育成

藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和8年2月3日 校長 竹田 聡

〈本年度も残り2ヶ月〉

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。1月下旬から厳しい寒さが続き、インフルエンザが増えてきました。うがいと手洗い、登校前の健康観察をお願いします。

本年度も残り2ヶ月となりました。3年生は進路決定が本格化し、2年生は修学旅行、1年生は校外学習の成果を生かした生活が期待されます。学年末は4月からのよいスタートにつながりますので、ご家庭でも次年度を意識して、本年度のまとめをよろしくをお願いします。

〈新入生保護者説明会〉

1月21日(水)に、新入生保護者説明会を行い、「校長あいさつ」の中で、私から次のような話をしました。

はじめに

私は小学校の校長を4年間経験しました。卒業前に小6の児童に話を聞くと、「部活動が楽しみです。難しくなる勉強が不安です。」と話していました。おそらく、同じだと思います。これから入学まで間、よい準備をして、よいスタートが切れるように、よろしくをお願いします。

1 中学校について

(1) 「小学校」と「中学校」の違い

私は、「小学校は家庭の延長にあり、中学校の延長には社会がある」と考えています。中学校は義務教育の最後です。中学校を卒業すると働くことができます。ですから、中学校の教育活動は、働くことに関連付けることができます。迷った時には、「一緒に働きたい人」を考えて、協力をお願いします。

(2) 「子ども」と「大人」の違い

子どもは、たくさんの失敗をし、失敗の原因を考えて、学びます。大人は、トラブルの未然防止に向けて行動します。中学生になると、乗り物は大人料金になります。それ以外にも14才、中学2年生を過ぎると、刑罰も厳しくなり、場合によっては逮捕されます。それは、大人の判断力が求められるからです。「そもそも問題は何か」を考えて、トラブルの未然防止にご協力ください。

(3) どんな大人になってほしいのか

3年後の進路選択は通過点です。将来、経済的、社会的に自立して、社会で活躍できるように支援、応援することが大切です。何事も最初から成功することはありません。うまくいかないことや失敗を糧にして、成功するまで、根気強く応援をしてください。

(4) 社会性を育む

藤中は行事や部活動など、異学年との関わりを通して成長する活動が多くあります。自分と異なる立場や考えの人と接し方し、コミュニケーション能力を高め、社会性を育む機会になります。

2 言葉は「ボール」と同じように

生徒にも教職員にも、「言葉はボールと同じように使うこと」と話しています。ボールの場合は、相手が捕りやすいように、目を合わせて加減をしてパスなどをします。

言葉も暴力となる時代ですから、アイコンタクトと言葉選びの重要性をご理解ください。

3 入学までのお願い

(1) 入学を切り替えのチャンスに

藤中は、3つの小学校から入学してきます。およそ2/3は知らない生徒ですから、新たな人間関係の始まりで、自分を変えるチャンスです。そのためには、小学校のことは小学校のうちに解決し、中学校に持ち込まないようにしてください。

(2) ネットトラブルの未然防止を

近年、スマホアプリやネットゲームでのトラブルが増加傾向にあります。SNSへの安易な書き込み、無断で動画をアップしトラブルに発展するケースがあります。また、長時間、夜間の使用により、生活が乱れるケースも見られます。中学校入学時にスマホを持たせるご家庭もあると思いますので、中学校の入学前に、ネットやスマホ利用の約束を決めてください。

(3) 疑問が不信に変わる前に

入学までの間に、色々な疑問があると思います。聞いてよいのか迷うこともあると思いますが、保護者からの質問により、中学校の対応や資料もアップデートされます。その際、メールよりは電話、電話よりは顔を合わせて対応した方が、良好な関係が築けます。噂やネット情報に頼らず、疑問から不信になる前に、遠慮なくお問い合わせください。

〈補足 ネットタイの色指定について〉

ネクタイの色について、2学期に生徒へアンケートをとりました。その結果、男女の色指定をなくすことに、問題はないと判断しました。

このことを踏まえ、令和8年4月から男女の色指定をなくし、赤・青どちらか好きな色を着用してよいといたします。

<小学校との連携活動>

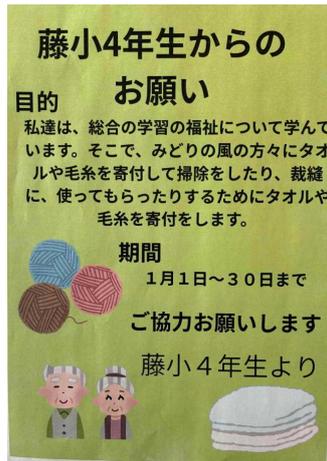
(1)総合的な学習の時間「福祉」

12月22日(月)に、「総合的な学習の時間」で福祉について学習している、藤小4年生が来校し、校長室で対応しました。

内容は、「みどりの風の方々に、掃除をしたり、裁縫に使ったりしてもらう、タオルと毛糸の寄付に協力をしてください。」とのことでした。

各クラスにお願いを掲示して、回収ボックスを昇降口の生徒会室前に設置しました。

もう少し回収したいと思い、2月6日(金)まで期間を延長しますので、ご協力ください。



(2)持久走大会への協力

1月24日(土)に、レールウェイパーク(関水金属鶴ヶ丘新工場)で行われた、鶴ヶ島第二小学校の持久走大会に、本校の陸上部が伴走のお手伝いをしました。

鶴ヶ島第二小学校の校長先生から、「陸上部の皆さん、顧問の先生、持久走大会では早朝からご協力いただき、ありがとうございます。たくさんの中學生にご協力いただき、子ども達に声をかけながら走ってくれたり、高学年には全国レベルの力を見せながら走ってくれたり、小学生にとって得るものが大変多かったと思います。保護者の方や地域の方からも、『全国レベルの人たちと一緒に走れるなんて素晴らしいですね。』という声もいただきました。ありがとうございます。」とのコメントをいただきました。



<2年生修学旅行>

1月28日(木)～31日(土)に、2年生が修学旅行で奈良・京都へ行きました。

初日の朝、東京駅での出発式で、私から次の話をしました。

最近の2年生を見ていて、授業や集団行動の切替が早くなったと感じています。とても成長していますね。

今日は「寂」について話します。この字は「わび・さび」の「寂」です。「寂」とは、古くて趣のある様子、「静寂」というように静けさなどを意味します。奈良、京都で「寂」を感じ取り、藤中のリーダーを目指して、みんなで修学旅行を成功させましょう。

修学旅行は、実行委員や係が主体的に活動し、たくさんの成果がありました。2年生の着実な成長がよく分かりました。藤中の最上級生に向けて、さらなる成長を期待しています。

<疲労と回復の話>

疲労は、誰にでも共通して、一生向き合うことです。活力があり、充実した生活を過ごすために、「疲労」への理解を深め、適切に回復すること(リカバリ)が大切です。

科学雑誌Newtonの2月号に「疲労と休息の科学」の特集があり、とても参考になりましたので、一部を紹介します。

症状による疲労の分類

身体疲労…激しい運動や暴飲暴食のように、身体
の局所的な使いすぎ

精神・神経疲労…人間関係の悩み、受験や仕事の
プレッシャー、長時間の細かい作業等

脳疲労…目や体の調整機能をにやう部分の疲れ

身体疲労は休息をとれば回復します。精神・神経疲労はストレス等への適切な対応が必要です。中学生の脳疲労は、視力低下による疲労があります。いずれの疲労も症状により、対応が違いますので、正しく把握する必要があります。

時間軸でとらえた疲労の分類

急性疲労…休めばすぐに回復する

遷延性疲労…疲労が数日～1ヶ月続く

慢性疲労…疲労が蓄積した状態で回復しにくい

1週間も疲労が続いたら危険なサインです。月単位になったら、医療機関を受診した方がよいそうです。特に、ストレスが大きい時は、脳が疲労を感じにくくなるように働くので、要注意です。

疲労回復には、「血流改善」が有効です。具体的には、ふくらはぎ、太もも、お尻、背中などの太い筋肉を動かすことがポイントです。ストレッチや軽めの運動がお勧めとのこと。

要は、疲労を蓄積しない工夫が大切です。